

おしきでんわき
押しボタン式ダイヤル電話機
(プッシュホン／600P 形)



1972 年／岡崎むかし館蔵

1878年(明治11)に日本で初めて電話機が作られてから90年後の、1968年(昭和43)に押しボタン式ダイヤル電話機が登場します。電電公社(現NTT)が1967年にコンピュータを活用したデータ通信サービスを開始するのに合わせて開発された、トーンダイヤル方式(数字ボタンを押すだけで固有周波数の音声信号を送信)の電話機です。公募により「プッシュホン」と命名され、この新たな通信電話サービスの提供にともない、各家庭の電話機は多機能化していきます。1972年にはグレーに加え、ホワイト、グリーン、レッドの4色展開がされています。

またその特徴は、これまでの回転ダイヤルの電話と比べて以下の4つが挙げられます。

- ① ダイヤル操作が簡単
- ② ダイヤル時間が大幅短縮
- ③ 「*」「#」ボタンが使い、短縮ダイヤルや伝言ダイヤルサービスが利用可能
- ④ コンピュータなどに電話してデータ送信可能(電車のチケット予約、銀行の残高照会)

このようなサービスの提供は、新たな家族の形態ともいえる、核家族や夫婦共働き家庭が増加していた当時の社会状況が求めたニーズでもあり、「プッシュホン」はそんな時代を象徴する道具のひとつです。

<参考文献> 『電話機のすべて』1991年,電波新聞社

『電話100年小史』1990年,日本電信電話株式会社広報部

NTT 技術史料館ホームページ : <http://www.hct.ecl.ntt.co.jp/index.html>(2014.12.02 参照)